第２分科会

「つながる心、つなぐ力」を育成する小中連携のあり方

ユニバーサルデザインを手がかりとした中学校美術科からの提案

小中連携グループ

【　本分科会の流れ　】

１　小中連携グループのこれまでの取組と成果、課題

２　アンケート結果を話題にしたパネルディスカッション

３　ユニバーサルデザインを手がかりとした
中学校美術科からの提案

４　質疑応答

５　指導講評

1　小中連携グループの目的

児童生徒の学びのつながりを意識する

①教育実践の改善　　②児童生徒の学びの質的向上

中学校教員が「小学校」を意識することによる効果の期待

「小学校の学びを知り、授業の中でその学びの活用や再発見の場を設ける」

「小学校指導者の多面的視点による児童生徒理解と、
それに基づいた題材開発や指導方法に関して見識研修を深める」

もう一つの効果を期待・・・

中学校美術科の存続の危機から、存続の価値への一般的理解の啓蒙

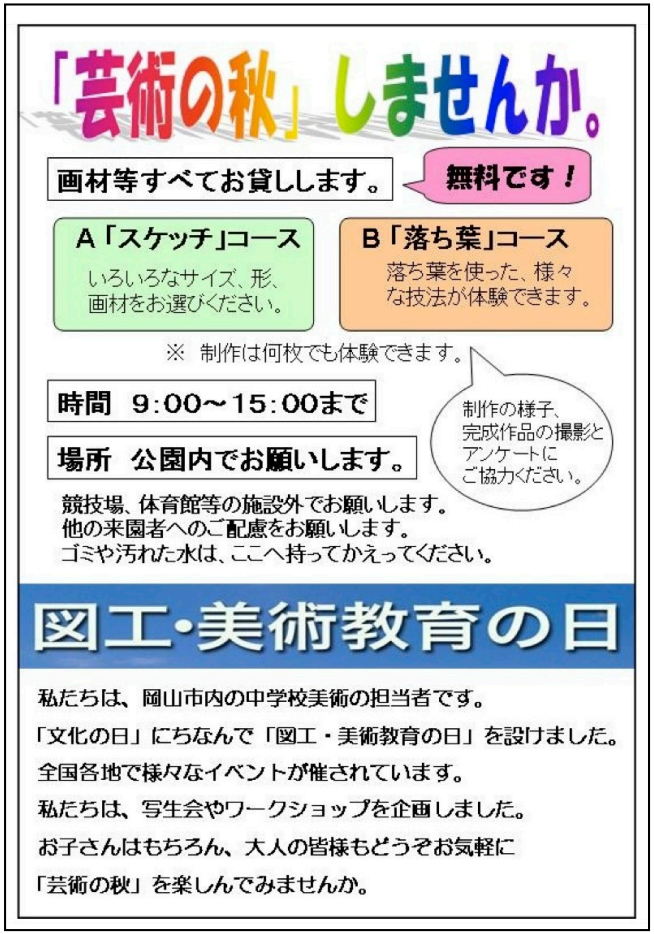
2-1　これまでの取組

【中学校美術科教員を中心とするコミュニティの形成とその活動】

・共同ブログ・hpの開設

・プチ研修会

・自主企画WS

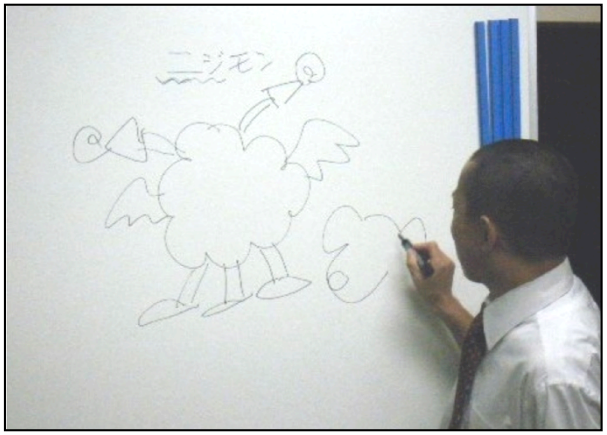


【小学校や地域との連携活動の試行的実践】

・小学生に中学生がワークショップ

・交流展覧会

・センター図工研修などへの参加



・市小学校図工部会への働きかけ

・小学校図工部会への研修会参加

2-2 これまでの成果

①岡山市内中学校美術担当者同士の情報交換、
協同的取組の増加

②小学校や地域との連携による、
児童生徒や地域との「つながり」の重要性の認識

③県北の美術科担当者との交流機会の増加と
異なる状況下の学校が抱える課題の相互理解

④全国の担当者との情報交換による、
連携のもつ教育的意義の確認と実践事例の調査

⑤大学・専門機関の研究者らとの連携による、
理論に基づいた題材開発・授業研究の実施

３　取組から見えてきた方向性と課題

【 方向性 】

① 小中共通の教育課題である「生きる力の育成」を
人・社会・自然と「つながる心、つなぐ力の育成」として捉え具現化することが、
小中連携の有効な統一的視点になりうること。

・「かく・つくる・感じ取る」を通し、生徒が人・社会・自然と主体的につながろうとする仕掛けをつくること。

・その中で、自他の喜びや幸せについて、感じ取り、考え、関わっていく能力を育成すること。

・これにより、生徒が生涯において、より協調的な生活を創り出さしていく心情や態度を育むこと。

② 小中連携の実践においては、
両校の教員間の「つながり」をつくることが前提条件であり、
さらに学校外との連携も視野に入れる必要があること。

【 課　題 】

小・中間の意識の違いから生じる課題

送り出す側	受け入れる側
学級担任制	教科担任制
基礎的で広範な教育内容	細分化・専門化した教育内容

小・中に共通した課題

小中連携に向けた教育行政的な未整備

・小中間の人事交流
・小中相互の研修会への参加の支援・援助
・小中連携を見据えた合同研修・研究

小中連携の具体的イメージの曖昧性

・連携の意識や目的への認識不足
　多忙化による連携活動の準備の持続や実践展開の困難さ

とにもかくにも、お互いの意識を確かめ合おう

アンケート調査の実施

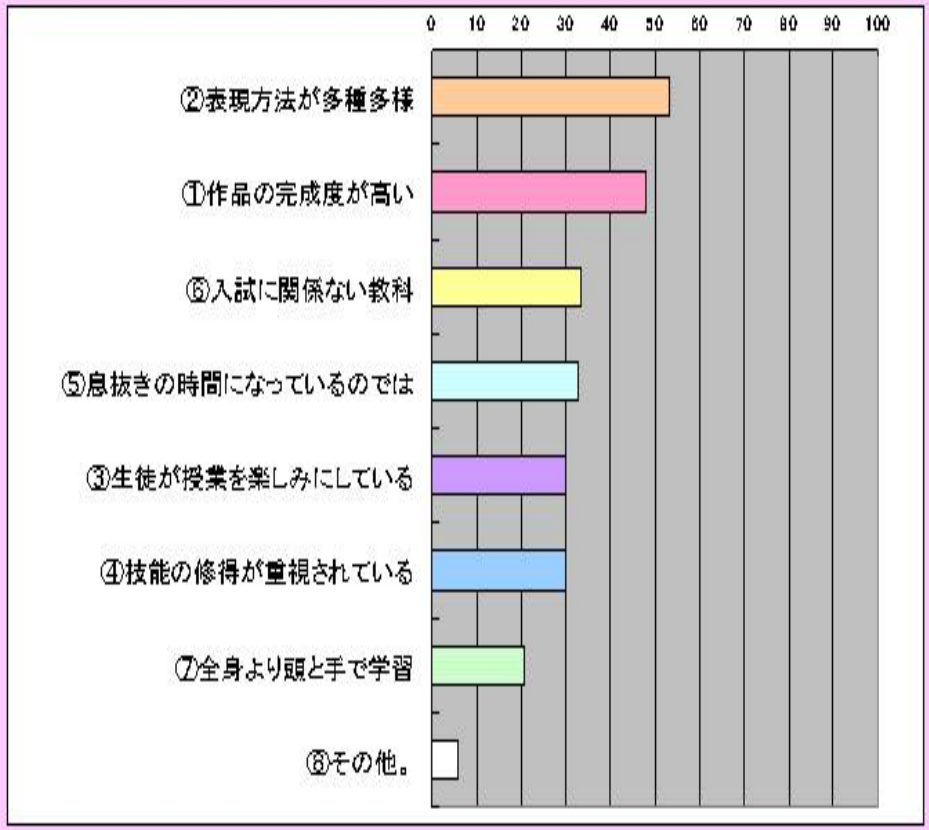
市内8小学校150名　中美担当者26名

Q　図工、美術　相互の印象は？
Q　図工、美術で身につけさせたいものは？
Q　題材設定において大切にしていることは？
Q　指導上、大切にしていることは？
Q　小中連携は必要か？
Q　図工美術の連携は必要か？
Q　連携の具体的な取組は？

↓

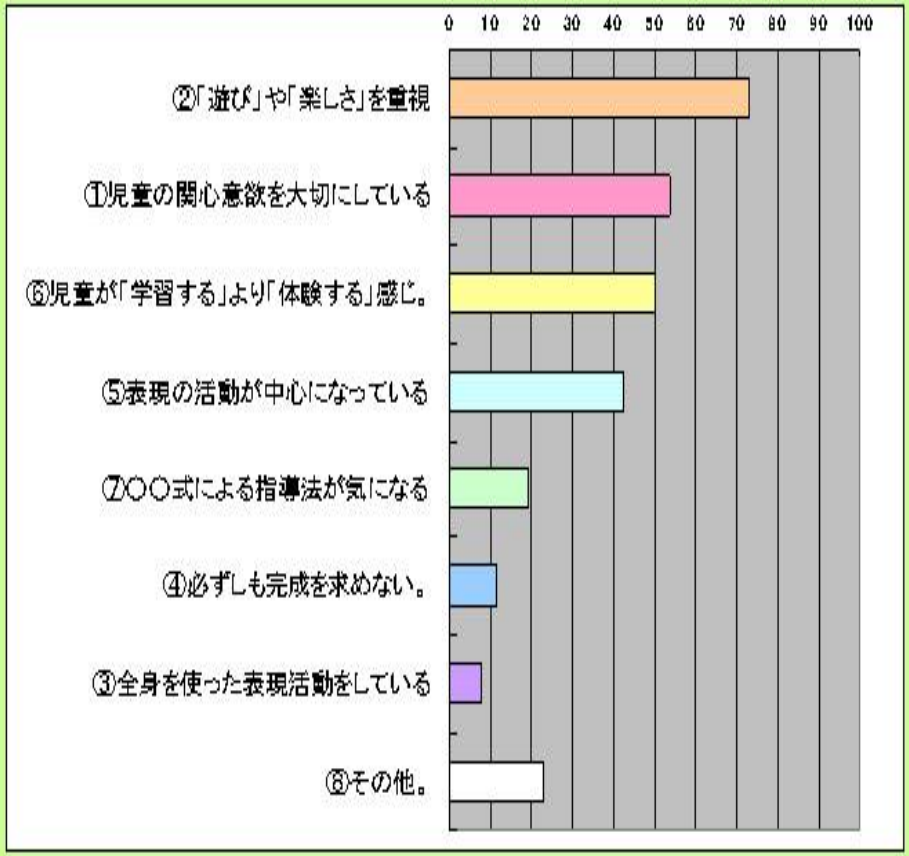
連携について議論を深めていく第一歩

Q　図工、美術　相互の印象は？



⑧その他

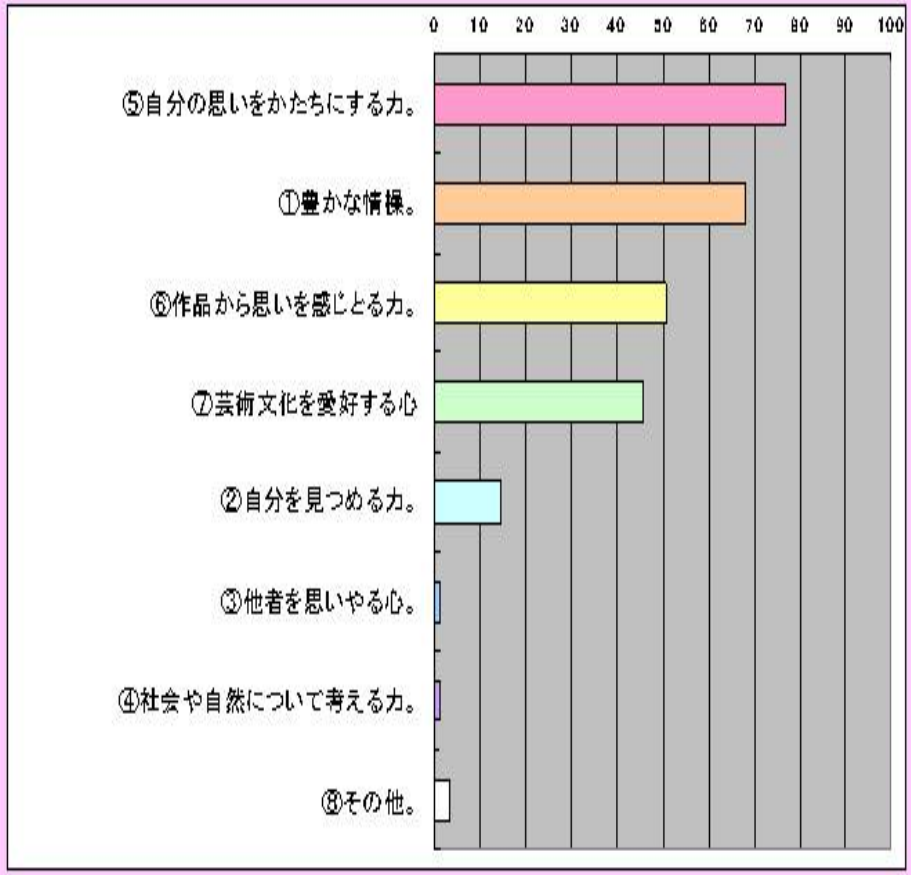
勉強とは違う面で集中できる時間	専門性が高い	よい意味で癒しの時間だと感じる。
時数が少なく活動が限られている。	専門的でおもしろい先生が多い。	知的な理解や知的な興味を元に授業をしている。技術的な指導を重視している。時間数が少ない
実態をよく知らないのでイメージのみ。	熱心な子とそうでない子とに，二極化している。	哲学の欠如。美術つまり広くは文化的心（作品）こそ，あらゆる垣根を越えて人間と人間を結ぶ架け橋たり得ることを教師が伝え切れていない。



⑧その他

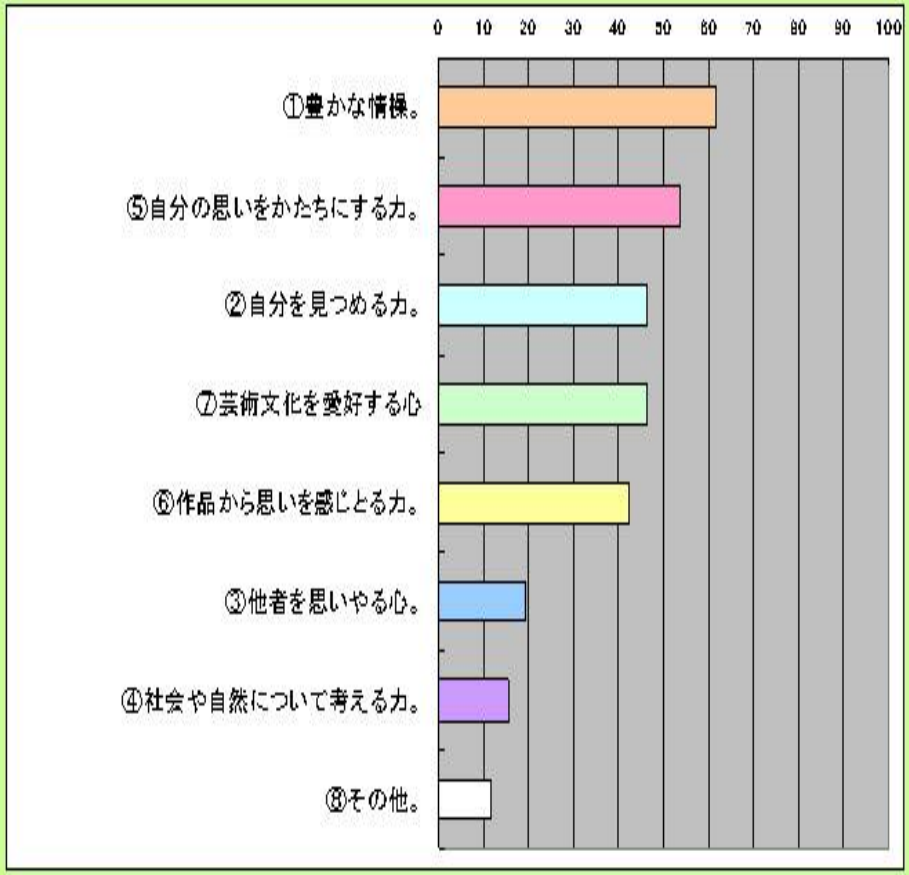
何をしていたかよくわからないという生徒が多い。着地点が見えず，ただくっつけたり塗ったり時間を過ごしていた。	図工専科の先生がほとんどいないので小学校の先生も手探りで図工をされていて困られていること，迷われていることが多い気がする。	表現や鑑賞の様々な活動を通して思考する学習
対象をじっくりと観察して描いたりつくったりすることをしなくなっている気がする。	ノートを点検したり，テストを採点したりするのにあてて，積極的な指導ができていないことを聞いたことがある。	図工の苦手な先生で教科書の題材や教材屋のキットをそのまま使っているのではないかと思うことがある。

Ｑ　図工、美術で身につけさせたいものは？



⑧その他

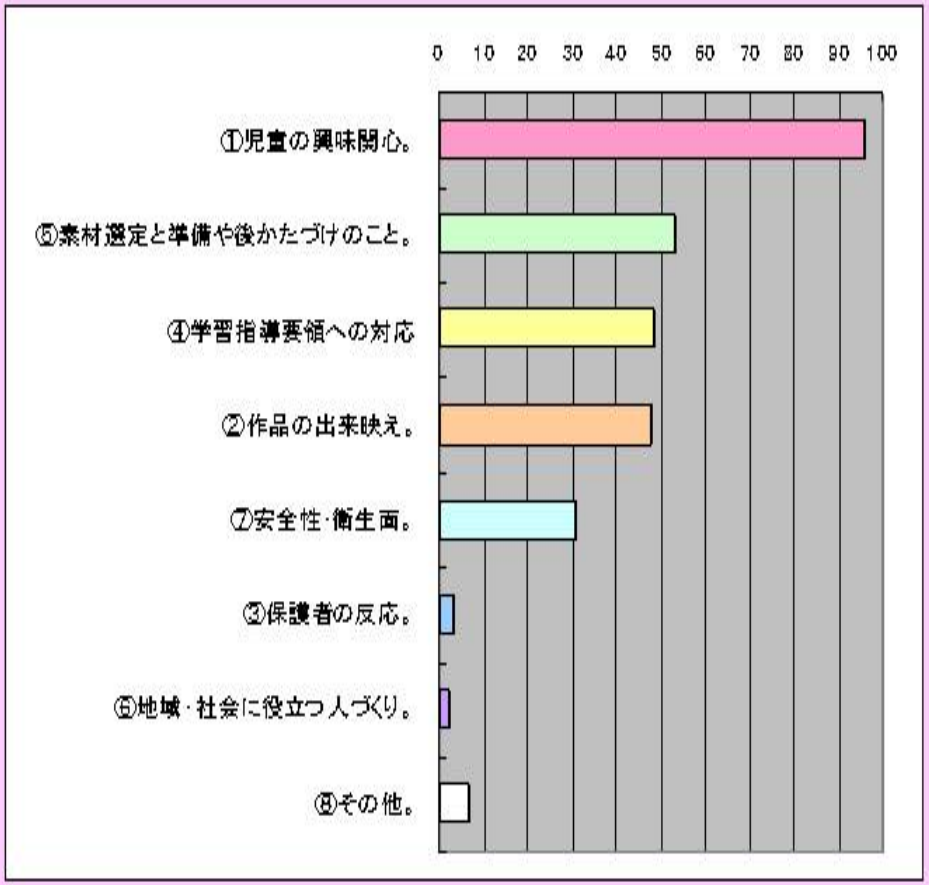
自分の手で作品を作り上げる喜び。集中力。	豊かな表現力	表現することを楽しむことができる心
友達の作品等から表現方法の工夫を感じ取る力。	自分の思いを表現する力。	



⑧その他

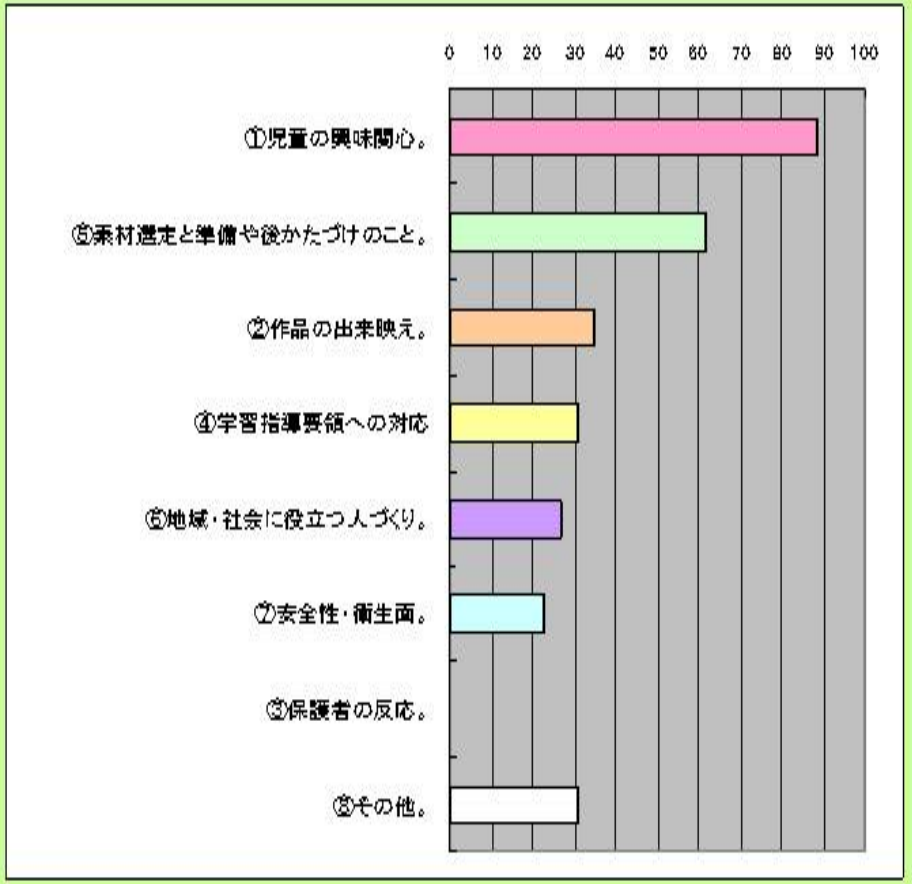
集中力やルール，マナー，妥協しない丁寧にすることなど。社会人になって生きてくる力。	表現の楽しさ	まわりを見つめる眼力

Q　題材設定において大切にしていることは？



⑧その他

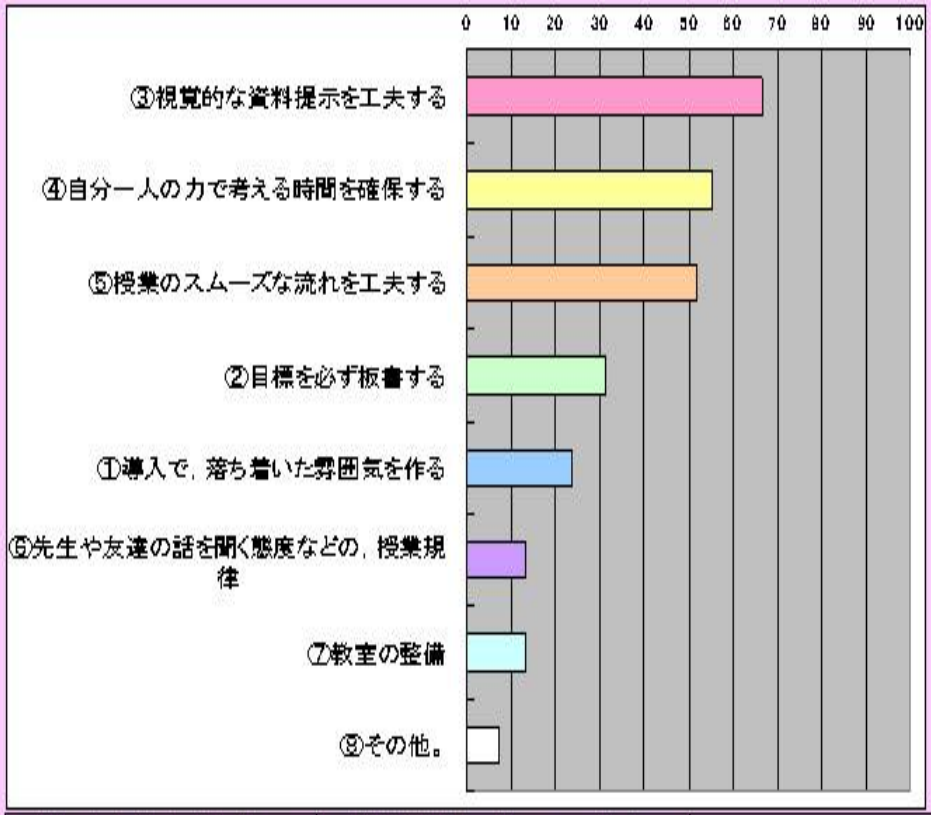
児童の意欲を引き出し，作品を創り上げる喜びを味わわせることにより生涯にわたってものを創り出すことに興味関心を持てるようにしたい。	やって楽しかったで終わらせてもよいものと，「いいのができた」と満足感がもて人からも認められる完成度も必要なものもあると思う。	教科書
制作を楽しむ	年間のバランスを考えること	
自分の思いを表現する力。	基本的な技能や知識	



⑧その他

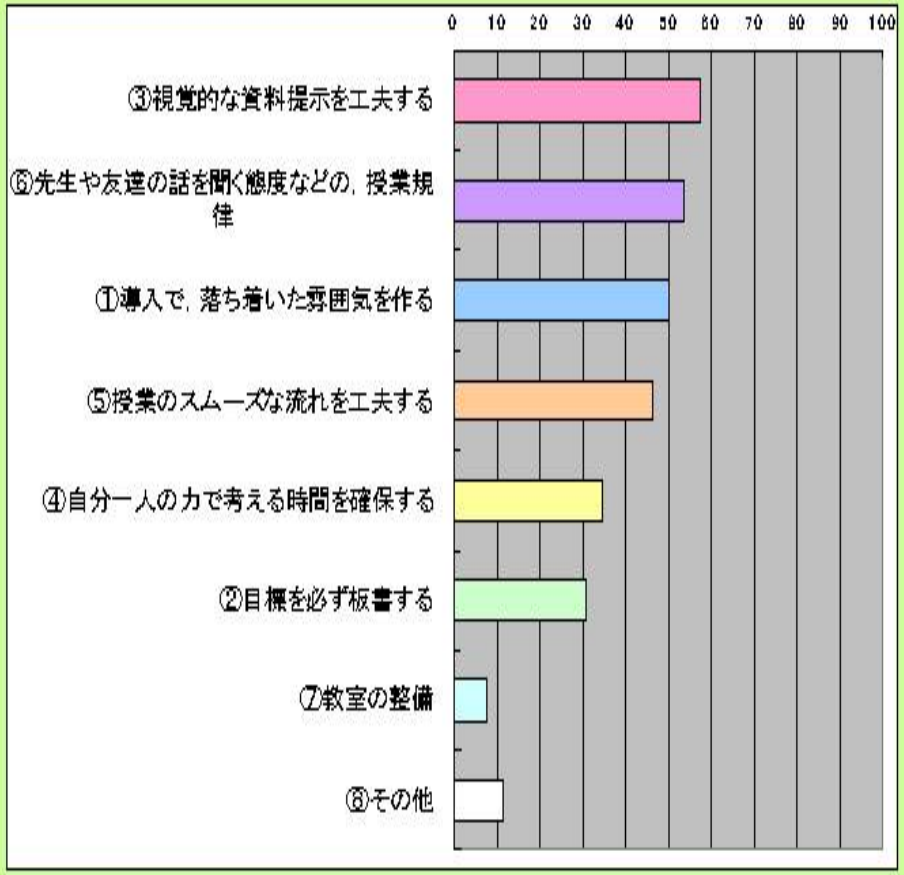
制作過程	将来生きていくために役立つかもしれない必要なこと。	感動
達成感完成度を視覚的に確認しやすいもの	制作に集中できるかどうか	美術での学びが生徒自身の生活とどう結びつくか

Ｑ　指導上、大切にしていることは？



⑧その他

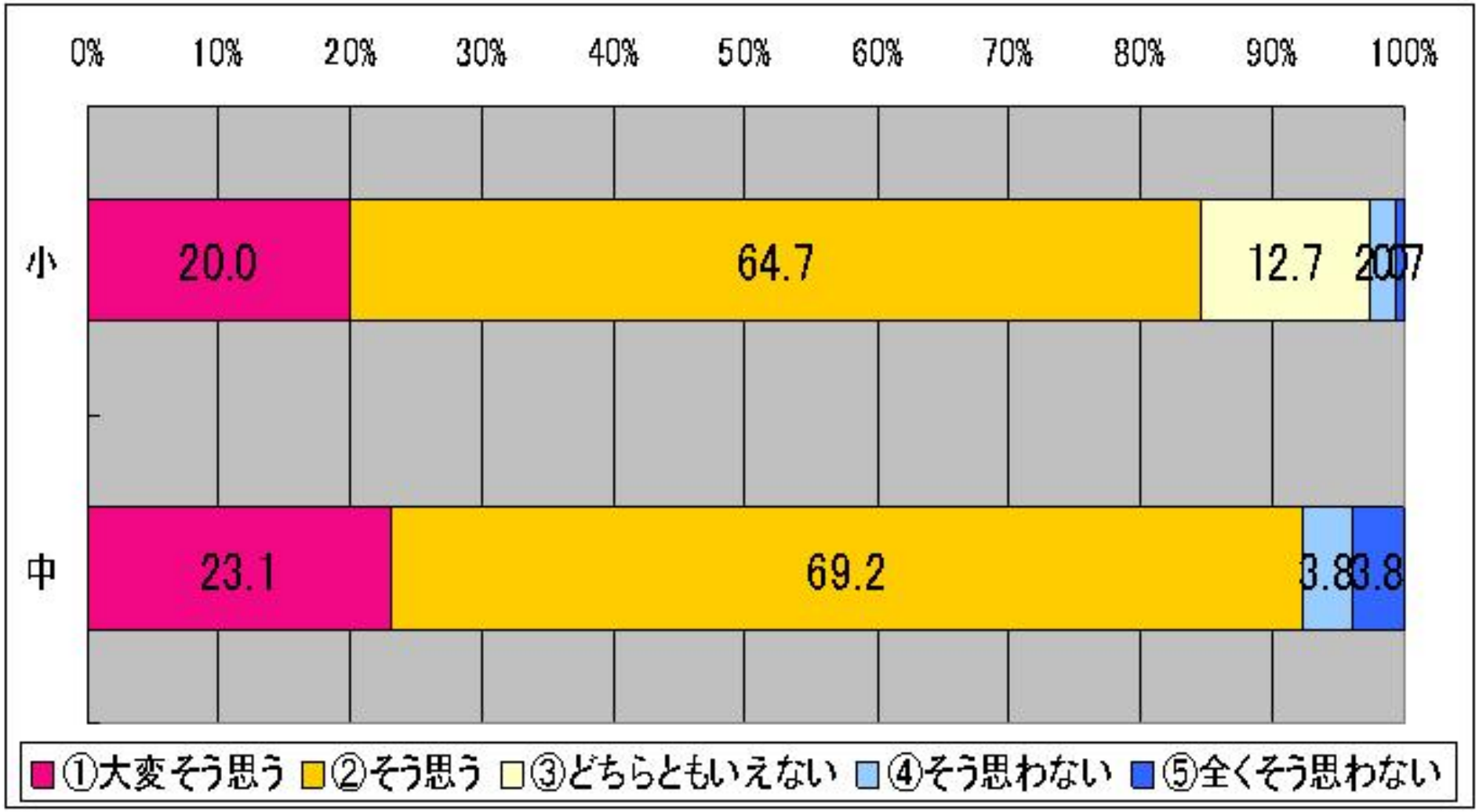
下学年(3年以下)ならば机の向きを変えて友達の作品が見合うことのできるようにする。	子どもが主体的に学習に取り組むことができるように，学習の見通しを持たせる。	自分の思いにあった表現にするための場づくり
自分一人でできない子への支援	描く内容やつくるものをイメージしやすいように絵本や作品例を見せる。	完成後に達成感や喜びを感じる時間の確保
素材の潤沢な準備。時間の確保。	技術的なことをフォローし，児童が達成感が味わえるようにする。	技能や道具の使い方を身につけさせる
活動がひろがるような準備環境作り		



⑧その他

生徒のやる気を促すこと
すべて

Ｑ６　ご自身が所属される学区において，小中連携は必要だと思いますか。



小学校

・子ども達のとりまく状況は厳しく，一定の考え方の共通理解が必要

・個々の特徴，家庭などの背景，特性を伝え小から中だけでなく中から小への働きかけを体験することが社会のかかわりや個人の成長に必要だと思う。

・地域でどういう子どもを育てるのか話し合い，各校種で系統性をもって育てていくことが大切。

・生活習慣の確立が学力の基盤になっていると思うので小中で同じことを指導した方がよい。

・子どもたちが今までどのように学んできたか，これからどのように学ぶかをお互いに教えることが大切だと思うから。

・大半の児童が進学する中学校なので卒業後も放っておけないから。

・中学校の授業もテスト対策みたいな講義的なものから脱却して，読解力や話しあう力をつける授業に変わってほしいから。

・小学校で学習したことを中学校の学習で意識したり生徒指導面では必要なことがあると思うが，深く関わることは実質的に難しい。

・情報交換をすることは必要だと思うが・・・授業参観しあうのは全体研の機会を利用するなど効率的に行わないとお互いに大変なだけだと思う。

・指導要領に基づいて実践しているのだから連携しなくてもつながっているのでは？

・まず授業そのものをきちんと楽しくする必要

・連携してこそのびるという明確な力が特にないと思ってしまう。

中学校

・生徒指導面で必要だしよく連携している

・保幼小中6校園での連携を行って「授業づくり部会」で意見交換を行っている。

・一人の生徒が幼稚園や小学校でどんな学習をしたかということを踏まえたカリキュラムづくりが大切。

・2小学校から入学しているが教えていたりいなかったりやり方が違う。ルールが違う。などがあり子どもの混乱を避けられたらと思う。

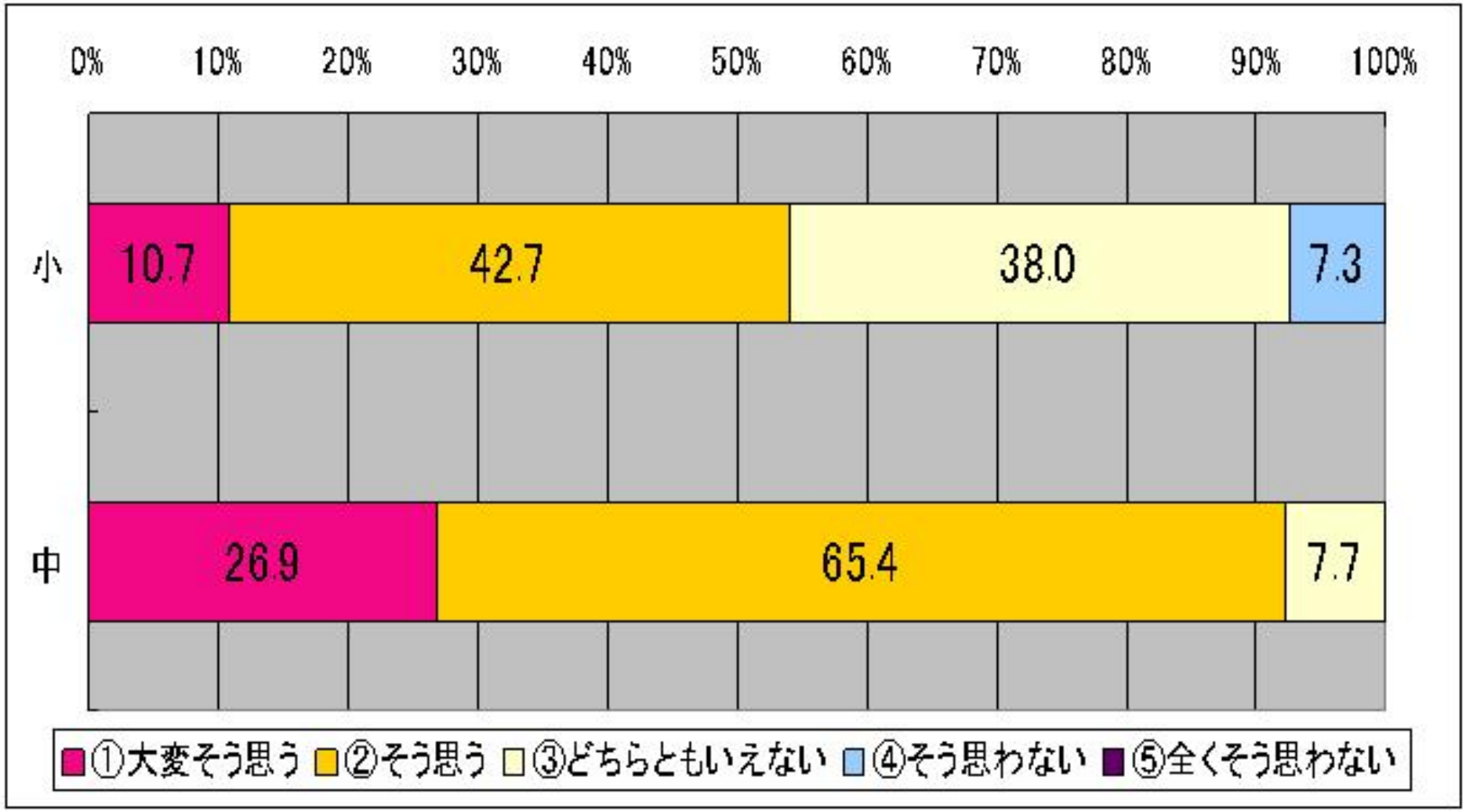
・小学校の授業を見る中でいろいろな発見があるので。

・生徒のことがよくわかる。新学期の連絡のみではわからなかったことも少しは理解できる。

・様々な指導者と出会うことが大切だから。

・併設型中高一貫校なので

Ｑ７　一般的に，図画工作科と美術科の連携は必要だと感じますか？



小学校

・子ども達のとりまく状況は厳しく，一定の考え方の共通理解が必要

・個々の特徴，家庭などの背景，特性を伝え小から中だけでなく中から小への働きかけを体験することが社会のかかわりや個人の成長に必要だと思う。

・地域でどういう子どもを育てるのか話し合い，各校種で系統性をもって育てていくことが大切。

・生活習慣の確立が学力の基盤になっていると思うので小中で同じことを指導した方がよい。

・子どもたちが今までどのように学んできたか，これからどのように学ぶかをお互いに教えることが大切だと思うから。

・大半の児童が進学する中学校なので卒業後も放っておけないから。

・中学校の授業もテスト対策みたいな講義的なものから脱却して，読解力や話しあう力をつける授業に変わってほしいから。

・小学校で学習したことを中学校の学習で意識したり生徒指導面では必要なことがあると思うが，深く関わることは実質的に難しい。

・情報交換をすることは必要だと思うが・・・授業参観しあうのは全体研の機会を利用するなど効率的に行わないとお互いに大変なだけだと思う。

・指導要領に基づいて実践しているのだから連携しなくてもつながっているのでは？

・まず授業そのものをきちんと楽しくする必要

・連携してこそのびるという明確な力が特にないと思ってしまう。

中学校

・基本的な道具の扱いなどつながりのある指導が必要と思うから。

・学区で子どもを育てるためには，保幼小中の連携は不可欠，校種ごとの特性をお互いに理解した上で一貫した指導が必要。

・図工と美術の連携の具体がイメージしにくい。
「美術の専門性を生かして図工についてアドバイスする。」上から目線では連携できない。

・少なくとも中学の先生は小学校での学びを知っておくべき。

・どの程度の知識があるか小学校によっても違う

・図工を苦手とされる小学校の先生方のためにも大切だと思う。

・どんなことを勉強，学習してきたかを全くわからなかったので，ある程度の連携は必要。

・9年間を見通した計画が必要。

Ｑ　小中連携の具体的な取組として考えられることは？

１　情報交換・研修

・教師間の交流。どのような指導をすべきか。どうやって学力をつけていくとよいかなど話し合い，連携すること大切。

・作品の評価について。図工教室の環境について。

・中学校の授業で求められるものを小学校教員が知り，小学校でどのよう活動し，どんなことを身につけているのかを中学校教員が知る。

・お互いの授業公開の際，共通の視点で考え意見交換すること。

・写生クロッキーなど技術面で小学校から中学校まで系統的な技術指導ができると苦手な子どもも絵を描くことに抵抗感を感じなくて楽しめるようになる。

・相互授業参観。情報交換。どんなことをしているのかお互いに知る必要がある。

・互いの取り組みに対する共感的理解。

・小中の年間計画を比べてみる会を持つ。

・色の塗り方や使い方の技法

・中学校の先生のアイデアを小学校の教科指導の刺激に。

・小学校での取り組みを知る。中学校として小学校で押さえてほしいことを伝える。

・小中でそれぞれ何をやったのかしていくのかを情報共有。ルールや声かけなど。

・児童の表現欲求の高いものについての指導

・中学の教員が勉強する。

・小中の教員の意見交換（授業など含め）たくさんする必要がある。

２ 出前授業・体験授業

・小学校の授業に来てアドバイスをもらう。

・高い技術を持った中学校教員が小学校の高学年を指導してくださることがよい取り組みと考える。

・6年の中学校訪問・授業を受けてみる。制作活動をする。

・ゲストティーチャーとして美術の先生に6年の図工に参加してもらう。

・専門的な技法を教えに来て下さると美術のしきいが低くなると思います。

・中学校の先生が小学校に来て授業する。

３ 交流授業・交流制作

・各校のイベントに参加する

・学区写生大会一賞品をよいものに。学区地域美術芸術作品展（保幼小中高大，公民館　地域老人会一公民館）

・同じ作品を方法を変えてより高いレベルでつくってみる。

・一緒に作品展とか、中学生が小学生に指導とか、作品を一緒に作る。

・小中，一緒に制作をして交流する。

・造形活動の方がいいかなと思う。（一緒に絵を描いたりするよりは）

・高学年と中学年との共同制作など。地域とのかかわりを深めるイベント参加など。

・小中同テーマでの制作，作品についての比較研究

４ 作品展示・展覧会

・中学生の美術作品を小学生が見る機会をつくる。

・小・中の作品展示物の交換等

・よい作品を見せてもらうこと等，作品からの刺激。

５ その他

・小6の担任と中1の教科担任が話し合いの場を持ちはじめは国数ぐらいで苦手な面をあげお互いに共通して取り組めるものを考える。

・児童会・生徒会のリンク，学習規律生活規律の継続，児童理解

Ｑ８を受け

連携を推進する手だてについて　重点項目を精選し実行策の検討，計画，実行へ

各中学校区単位で，職員研修で活用してみていただきたい。

work 1

	着手容易 ⟷ 着手困難	
効果大 ↕ 効果小	早速実行	中期計画
	発展性期待	長期計画

早速実行可能策について
具体的な計画を立てるために

work 2

No.	実行策	い　つ	だれが	何を	どのように

okachubi.exblog.jp

図工美術OKAYAMA

図工美術OKAYAMA・HP

http://okachubi.jimdo.com/